

あ と が き

戦後 50 年の 8 月がやってきた。50 年経過すると多くのことが歴史のひとつになるのだが、海外残留孤児や原爆被爆者をはじめ多くの人々にとって、この 50 年は精神的、肉体的な苦痛がとぎれることのない瞬間であったにちがいない。そんな折に文部大臣ともあろう人が戦争責任に関して軽率な発言をし、翌日言い直しをした。1 日たってから注釈を付けなければ意味の通じないような日本語をつかうことに腹が立つ。だれに限らずあとで撤回するような無責任なことは口に出すべきではない。

医学論文を含めいかなる文章、演説でも、誰にも理解してもらえ、正しい言葉に心を込めて語ることが肝要であろう。

本号には、巻頭言、特別講演 2 編、原著 12 編と症例報告 2 編が掲載されている。巻頭言は島根医科大学学長の高折修二先生から頂戴した。自然科学に携わるものの心構えを説いておられるが、偶然との出会いを創造的な研究にどのように生かしていくか、示唆に富む一文である。原著のなかに英文が 3 編含まれており、国際的な評価を得るためには大変重要なことで今後も積極的な投稿が期待される。幸い本誌には Barron 編集委員がおり英文に対するチェックを十分にさせていただけるので、是非とも内容の充実した論文を提出していただきたい。

(小柳泰久 記)

幹事会 (要旨) (平成 7 年 7 月 26 日)

1. 第 135 回医学会総会について報告があった。
2. 平成 6 年度臨床懇話会 (6 年 10 月~7 年 7 月) の開催報告があった。
3. 平成 7 年度臨床懇話会 (7 年 10 月~8 年 7 月) 開催予定の報告があった。
4. 編集状況の報告ならびに編集について討議した。
5. 第 136 回医学会総会はシンポジウムをおこなう。開催日時は 10 月 21 日 (土) 午後 1 時。
当番教室：生理学第二講座、精神医学講座
6. 東京医科大学雑誌投稿規定の一部改正について審議し、平成 8 年 1 月 1 日から改正することとした。

編集委員会

渋谷 健 (会長)
伊東 洋 (副会長)
三浦 幸雄 ()
岩根 久夫 (庶務幹事)
小柳 泰久 ()
内野 善生 (編集幹事)
高山 雅臣 ()
登坂 恒夫 (会計幹事)
友田 燦夫 ()
阿部 公彦 (委員)
一色 淳 ()
白井 正彦 ()
加藤 治文 ()
齋藤 利彦 ()
J. Patrick Barron ()
林 徹 ()
福武 勝幸 ()
星加 明德 ()
松岡 健 ()
水口 純一郎 ()
水野 文雄 ()
外山 圭助 (監事)
藤波 襄二 ()

平成 7 年 8 月 20 日 印刷

平成 7 年 9 月 1 日 発行

東京医科大学雑誌 第 53 巻 第 5 号

発行者 渋谷 健

発行所 東京医科大学医学会

(東京医科大学総務部総務課内)

東京都新宿区新宿 6-1-1

TEL (3351) 6141 (代)

印刷所 共立印刷株式会社

東京都中央区新川 2-23-9

TEL (3551) 9891 (代)